

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101581		
法人名	株式会社やつかの郷		
事業所名	グループホームやつかの郷 西ユニット		
所在地	島根県松江市八束町二子1025番地9		
自己評価作成日	令和4年3月12日	評価結果市町村受理日	令和4年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/32/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社ケーエヌシー
所在地	島根県松江市黒田町40番地8
訪問調査日	令和4年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設前に中海を望み、春には海岸道路に千本桜が咲き、敷地内の庭には牡丹が咲き誇る自然豊かな環境にあります。同町内の方や島根半島出身の方が多く利用しておられ、馴染みの方も多く穏やかに過ごして戴いております。中庭の庭園を眺めながら日向ぼっこをしたり仲の良い利用者同士でおしゃべりしたりして、ゆったりとした時間が過ぎているようです。地元で採れた野菜や、朝どれの魚を使った献立を栄養士が考え、毎食施設内で調理しています。食事の準備や片付け、干し大根等の保存食づくりなど利用者と一緒に、出来る事をしてもらい、食べる事の楽しみや、役割を持った生活をしてもらえるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は長閑な中海と緑なす島根半島を一望する景勝地に立地し、海岸道路は千本桜が春を彩り、敷地の庭は牡丹が咲き誇る豊かな自然環境の中で、「支え合う笑顔のあふれる暮らしを共に築き、地域とのふれあいを大切にきたかき馴染みの関係を作る」との理念の元で職員は、同じ町内の方や島根半島出身の方が多く利用される事業所で、プライバシーを確保する対応を共有するチームケアを実践している。利用者は中庭で日向にあたり、仲良くおしゃべりをしてゆったりとした時間を過ごす暮らしをし、栄養士の作る「地元の野菜や朝獲れ魚の献立メニュー」は朝昼夕に調理される食事を楽しんでいる。食事の盛り付け・配膳・片付け等や干し大根の保存食づくりでは職員は利用者と共に、できる力を活かす役割のある場面づくりの暮らしを利用者はしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現場の職員で意見を出し合い作成したものを継続し、事業計画は年度初め職員会議で考えを共有し、玄関やユニットに掲示し委員会や施設内研修等で議題にあげ意識統一に努めている。	理念は、現場職員で意見を出しあい行動指針を作成して意識づけを共有し、年度当初の職員会議で理念に基づき作り、理念は玄関やユニットに掲示し、内部研修等で議題にあげ実践の意識統一をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から畑の手伝い、大正琴、踊り、コーラスなどのボランティア訪問設けている。毎年文化祭でPRの為のパネル展示も行っているが、本年度は中止された。	新型コロナウイルス感染禍の最中、地域の芸能等のボランティア来訪は自粛され文化祭パネル展は中止となったが、多趣味の職員が代わって頑張ってイベントを行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりに参加し、民生委員の方との交流や、施設紹介などを行い、地域の研修会に活用していただけるよう働きかけた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	家族関係者、地区長、駐在の方、地域の薬局の薬剤師等の知見者、行政関係者で開催し、行事や研修等の活動報告・勉強会・今後の予定を伝え意見交換したが、本年度はコロナ禍で報告書と勉強会の資料送付を行った。	運営推進会議は委嘱された行政関係者等のメンバーにより開催されてきたが、本年度は新型コロナウイルス感染症防止により事業所の行事や勉強会等の活動報告、今後予定を伝える書面会議とし、質問・相談の意見交換に繋げた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で意見交換を行ったり、生活保護担当者には生活の状況を伝えたりして日ごろから協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当者とは運営推進会議で双方向的に意見を交わし、生活保護担当者には保護の利用者の生活状況を伝え、日頃から協力関係構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設で身体拘束廃止に関する指針をもとに身体拘束廃止・虐待防止委員会を定期的に関し、センサーやマットコールの見直しをして拘束しないケアを実践している。外に出られる時には一緒に散歩するようにしている。	身体拘束廃止委員会は1ヶ月一回の虐待防止委員会と合同で定期開催され、指針で拘束等を学習し、拘束は駄目を職員皆で注意し合える関係を大切にしている。外出願望対応は付き添って散歩をし、玄関の施錠は昼間は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で積極的に学び、現場で声を掛け合い互いに助け合える関係づくりに努めて、リーダーが業務分担も配慮している。職員には定期的に施設長や管理者が面談をし、声を上げ易い環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括との連携、弁護士への相談、成年後見制度を活用したり、ご家族からの相談を司法書士へつなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には本人家族に十分説明し理解頂き、同意を得てから手続きをすすめている。改定の場合は、運営推進会議で話し、文書でも通知し、周知を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3回施設の新聞を発行し、年に2回お便りを送り様子を伝えている。何かあれば家族に連絡をとり報告し、面会時に声を掛け意見を得るようにしている。	年に3回施設新聞を発行し、年2回お便りを送り本人の暮らしを伝え、ご家族の面会は窓越しであるが、声掛けし意見を聞き、心配なこと等は連絡を取り報告している。景色を見るため居室前には駐車するように利用者要望は運営に反映された。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と個人的に話をする機会を持つようにしているが、日ごろは会議等の時間でも職員が気軽に意見が言えるような雰囲気づくりを心掛けている。休みの希望はできるだけ聞き、調整し対応するようにしている。	職員会議等は職員が気軽に意見が言える雰囲気で行われ、希望休は調整の上対応されている。話にくい事は個別に意見を聞いて上にあげて反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の能力や経験を考慮し業務内容等配慮している。希望休を望む職員には考慮して勤務の調整を行っている。資格手当や役職手当をつけてモチベーションアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正規職員、パート職員にこだわらず外部研修や資格取得にむけての研修に積極的に参加している。毎月職員会議の後に施設内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加し他事業者との意見交換できる機会を作ってるが本年度は中止された。職員は外部研修や交換実習を通じ意見交換を行っている。他事業所とは新聞を送り合い意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族も交え本人とコミュニケーションを取りながら、心配事や不安がなくなるように要望を受け入れ、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話し合いの場を設けてご家族の意見を聴き、要望に応えながら安心してご利用いただける様に努めている。利用者の家での様子や、昔の話を聞きながら不安や要望等を話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを受け止め、どのようなサービスが必要か見極め、当事業所に限らず他のサービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割を持っていただき、職員も教わりながら互いに信頼関係を築いている。手伝いをお願いしたり、工作や飾りつけで案を出してもらい、感謝を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の近況報告や電話連絡で施設の様子も伝えている。個人で携帯電話を持っている利用者もいる。精神的に不安定になり易い方には定期的に面会に来て頂き家族と相談し、共に本人を支える支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	置希望の方には安全を確保した上で置を敷き、家族写真やなじみのものを居室に置いたり、電話や手紙のやりとりをしている。以前の関係を続けることに加えてここでの新たな仲間づくりも支援している。	家族写真や馴染みの物が持ち込まれ、電話や手紙でのやりとりで入居前の関係が継続され、敷地内のディサービス事業所の知人に合いに行ったり、施設内での新たな仲間づくりが支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し会話の橋渡しをして、関わりを大切に声掛けを行っている。食堂の席替えも密にならない配慮で様子を見て行っている。ユニット間での往来もあり、孤立することのない様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合は相談に応じて助言等行い支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人の訴えのあったことは記録するようにしている。主に居室担当が関わり意見を聞くようにしている。モニタリングも担当が行うことで評価しながら思いを把握するように努めている。	本人の訴えは記録し、居室担当が意見を聞き、モニタリングも行い評価して思いを把握している。困難な時は、日頃の様子や何をしている時にどんな表情をしているのかを観察し、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人等とのコミュニケーションを大切に話をうかがい、生活歴やこれまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの関わりを大切に様子を知り、職員同士声を掛け合い、申し送りノート等活用し情報共有し連携を取り、現状把握に努め、医師や看護師、栄養士、薬剤師等多職種と連携し様々な視点を取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回担当がモニタリングし、更新時は担当者会議を行う。家族参加は日程調整が難しい時は電話で意見を聞き、主治医には受診時に意見を聞き計画作成に繋げている。看取りの場合は病院でも実施している。	モニタリングは毎月1回居室担当が行い、介護度更新時には担当者会議を行っている。介護計画作成は、計画作成者・他職種の職員・主治医・家族が係わり意見を折り込んで現状に即してチームに繋げて行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や気づきを生活記録に記入して、日勤帯、夜間帯での一覧の申し送り事項を活用して職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が受診に付き添えない場合に受診介助を行ったり、喫茶や買い物等の外出支援をコロナ禍で出来る限り対策をとって希望に応じて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事では地域の方と一緒に地元のお菓子作りするなど一緒に楽しんだり、3B体操の講師を毎月招いて体操していた。コロナ禍で機会が減っているが、対策を講じて相談しながら再開していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や緊急時にも対応可能な協力医がいる。月1回職員が付き添い受診し、日頃の様子を詳しく伝えている。家族対応で今までのかかりつけ医を継続する事は入所時に決めている。重度の方は往診対応となっている。	往診や緊急時の協力医がいる。事業所の町内医院の受診は、職員が付き添い日頃の様子を詳細に伝え、家族が付き添うかかりつけ医の受診は入所時に決めて継続されている。受診困難、重度の方は往診対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師には出勤時以外も緊急時は24時間対応で随時電話で相談する他、隣接するデイサービスの看護師や協力医の看護師等に指示を仰ぎ連携を取りながら受診、看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、相談員と連携をとりながら、訪問した際には医師や看護師等からの状況把握に努めている。退院時のカンファレンスに出向いたり、サマリーや電話等で情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度に向けて話し合いを進めており、現在も看取り契約をする方がいる。今年も1名の看取りを行い、今後対応可能な範囲で取り組みたい。急変の対応は看護師より研修を受けたり、経験の浅い職員へもリーダー以上が配慮してチームケアを進めている。	夜勤1人で大変なコロナ禍看取りの経験「職員対応・スタッフ人数・職員の必要なケア・介護度対応」について、看取り研修職員が中心となって話し合い、看護師の急変時の研修や経験浅い職員の配慮も考慮し、今後の看取り契約利用者のチームケアを進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署の協力を得て、救命講習を受講しているが、今年度は施設内研修を行った。ステーションにフローチャートや対応マニュアル等を張り周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設は民家から離れた場所にあり、グループ全体で協力し避難訓練をしている。水や米、毛布やカセットコンロ等の備蓄は定期的に防災委員会で見直している。地震や風水害、原発事故のマニュアル整備を検討している。	災害対策は事業所グループ全体で協力し、避難訓練はコロナ禍でホームのみで年2回行ない、消防署とは通報訓練のみである。自然災害は松江市との話ではここは安全な場所と云われている。毎月開催の防災委員会では食料等備蓄を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地元からの入所者も多いため、守秘義務について会議等で取り上げて注意を促している。入社時や年度始めに個人情報や守秘義務については話をしている。方言の使い方や利用者との関係性を含め接遇について繰り返し会議であげている。	プライバシーの守秘義務は、ホームでの情報を外に出さないよう会議等で注意を喚起し、入社時と年度初めに個人情報の守秘義務は話され意識づけを行なっている。。方言の使い方は年長者を頭に入れた接遇研修で取り上げ尊厳を尊重する対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の訴えや意向を会話の中から探り、自己決定できるような声掛けや支援を行っている。いくつか選択肢を例にあげて聞くように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが出来る限り整うように配慮しながら、ケアプランにそって一人ひとりの状態に応じた対応を声掛けをしながら実施している。食事やお茶の場所など本人の意向に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候に合わせて快適な服を調整しながら本人の思いを大切に衣類を選んでもらったり、買物支援、化粧等おしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方と作っている野菜や地元の魚を仕入れ地産地消に取り組んでいる。切干大根等保存食作りや盛り付け、下膳、食器洗い等利用者と一緒にしている。魚が苦手な方には別メニューを提供する等食べる意欲がわくように関わっている。	利用者と収穫する野菜や地元で獲れる魚は地産地消に取組み、切干大根等保存食作りや食事の盛り付け等は、利用者は力を発揮して職員と一緒にいき、好き嫌いのある利用者には別メニューで食欲を高める支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を立て、バランスや食事形態を考え、無理なく全量摂取できる様にして、食事量、水分量もチェック表に記入し、好物を時間を決めず、本人の状態に応じて医師や看護師等多職種連携し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助により口腔ケアを行い、チェック表に記入している。本人の状態をアセスメントし一人ひとりに合わせた方法で、必要に応じてハミングット等の用具も購入しながら口腔ケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認、把握し個別対応している。多くはRHパンツにパット使用だが、布パンツの方もいる。オムツの方は定期に交換し、コスト面や家族の負担軽減のために一括購入し定期的にパット等見直している。	排泄チェック表でトイレ誘導等は個別に対応する支援を行い、利用者の多くはリハビリパンツ等やパッドを利用者の状態に合わせて使用している。パッドの見直しも定期的に行い一括購入により家族の負担を軽減している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時には牛乳等の水分やヨーグルト摂取、散歩等の運動を促しているが、排便間隔や便の状態など場合によっては医師に相談し処方された便秘薬で適宜コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴回数を確保しており、受診や行事等予定に合わせて午前午後とも対応できるようにしている。家庭浴槽のため重度の場合対応しにくい、入浴用の椅子でシャワー浴をしたり、清拭で対応している。	入浴は、曜日を決めずに1日に3人か4人が週2回から3回程度で個々に合わせた支援をし、受診・行事等の日は午前午後何れも希望に沿って、重度の方は、椅子を使いシャワー浴又は清拭を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠の方は日中活動を促し、日に当たって体内時計をリセットして貰い、午睡もホールで見守り、ソファーや畳で寝て頂く等個別に支援している。室温調整や照明も本人に応じて調整し、良眠できる様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	希望者は居宅療養管理指導を受け、薬剤師の内服管理や健康チェックを受けている。薬剤師、看護師がセットしているが、職員も一人ひとり既往歴の把握に努め、内服管理表で確認できる様にしている。服薬時はチェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割を持ち、職員も教わりながら互いに信頼関係を築いている。洗濯物干し、たたみ、食事の準備や後片付けを手伝ってもらえるような環境づくりに努めている。ドライブしたり気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行可能な方は車で受診に出掛け、帰りにドライブに立ち寄るなど定期的な外出の機会となっている。施設の敷地が広く、景色も良い為、日光浴や散歩も喜ばれている。	コロナ禍では、日常的に外出する企画は困難であり、受診時の帰りの際はドライブで立ち寄り窓越しから眺める等外出を工夫する支援が行われている。他方、広い敷地内で良い景色を眺めて日光浴や散歩をする利用者の外出が支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意のもとで本人がお小遣い程度のお金を所持しておられる方もいる。希望時には買物支援も行っている。コロナ禍で買い物が難しいが、移動販売のパン屋やヤクルト等買い物をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が電話をかけて直接話をされたり、年賀状や手紙のやりとりも支援している。家族と相談し、曜日等を決めて電話される人もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットの中央に中庭があり居室が囲む様に配置されている。和を感じる中庭や施設周りも季節毎に花を眺める自然豊かな場所。玄関正面の広いホールは、大型のテレビが楽しめ、合同の行事開催に使用して、明るく静かで移動にも十分な広さがある。	東・西の両ユニット居室に囲まれる中庭は、和風の趣きで心地よく、玄関正面のホールは、多目的使用もできる広さで調度品のソファ等配置は利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。廊下等共用空間は利用者の作品等掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファやテーブル、テレビを設置し、利用者の方が自由に使用できるようにして、思い思いに過ごしている。利用者同士で居室に行き来し一緒にお話したり、施設内を運動の為に散歩したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に大きい収納が備え付けである。植物の好きな方は大きめの鉢を置いたり、写真を飾ったり、ソファを置いたりしてくつろげるようにしている。	各居室は大きくて収納勝手のよいたんすが備え付けられ、ソファ等使い慣れた調度品や趣味の植木鉢が持ち込まれ、家族等の写真が掲示され、居心地の良く、くつろいで過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、安全に移動できるように手すりも設置されている。畳敷きにする等自宅と同様の環境を整えたり、可能な限り自立した生活が送れるよう支援している。		